近木川再発見からまちづくり

大阪府貝塚市立自然遊学館非常勤嘱託
近木川流域自然大學研究会　代表　橋本 夏次

1. 活動方針・目的

＜地域の目線で考え、地域の動きで活動＞

祖先は、自然の恵みに感謝をし、畏敬の念をいだき、長い年月をかけて人と自然とのいい関係を築いてきた。しかし、個人主義、豊かさを物質的なことへ求めるなどで、その関係がくずれてきた。そこで、それ（人と自然とのいい関係）を見つめなおし、再構築することを目的として活動する。

2. 活動内容

＜「人と自然とのいい関係」の再構築　　子どもの案画による川の分校づくりへ＞

近木川の水質が、2級河川で二度（5・9年度）も全国ワーストワンになった。平成7年度、近木っ子探検隊を結成し活動を始めた。活動は、清掃と遊びで楽しさから、活動は持続した。ハクセンシオマネキの発見。8年度から総合学習の取り組みが盛んになり、子どもの豊かな感性での表現と行動には、大人はかなわない。昨年5月に実施した「子どもと大人の井戸端会議」で子どもたちは、将来の水辺について「人間の一方的じゃない川。」「人も、生き物も、川も、海も、お互い好きでいられる川。」といい、そのために何をすればいいかについて　「川のことを良く知る。」「活動の輪を広げる。」「ゴミを捨てない。」「生活排水をきれいにする。」などの意見が出た。

子どもと大人の井戸端会議（平成17年から継続）　近木川フォーラム（平成7年から継続）　出前教室（平成8年から）　環境学習のサポート（平成8年から）などをしている。

平成11年2月、子どもから「遊べる近木川にしてください。」近木川市民フォーラムで提案があり、これを受けて、近木川流域自然大学　海・山・川の分校とし、市の施策計画位置づけ、海の分校は、貝塚市立自然遊学館、山の分校は、ほの字の里と既設の施設で対応、川の分校を「子どもの参画」で進め、ロジャー・ハート,ロビン・ムーア両先生からご指導いただき、まちづくりへつなげている。

地域特性⇒自然環境、歴史的遺産　祖先が築いた生活文化などを調べ「地域の誇り」となる情報を提供している。これ等の活動から、近木川大好き、貝塚大好きと郷土愛が育ち、ふるさと志向が高まれば、「人と自然とのいい関係」を取り戻問題す活動につながる。「暮らしでの問題（生活排水など）は、暮らしで解決を」　結果　BOD21mg／l（平成9年度）から6.7（平成19年度）に

3. 過去の失敗事例

近木川汽水ワンド（15年度大阪府により事業化）　フォーラムで提案のあった「近木川河口に汽水ワンドを。」についてつくる会を発足させた。自然再生事業を意識して、①流域での取り組み、②市民活動として、などから取り組んだ。①は、「遊べる近木川にしてください。」子どもの提案、近木川流域自然大学　川の分校づくり。①は、町会連合会が中心での取り組みで、「汽水ワンドをつくる会」の会長に町会連合会長が就任。②について事務局が、専門的な取り組みに終始したため、最終提案書をまとめる会議で、地元町会の同意が得られなかった。事業化で、事業担当者（大阪府）のきめ細かい対応、町会に信頼関係のある人の活動などで地元町会の了解を得ることができた。

4. 今後の課題等

「近木川汽水ワンド」については、校区となる「西小学校環境科学クラブ」の活動を子どもの目線で支援する。高校、大学との連携、大人との協働。近木川流域自然大学　川の分校づくりの取り組みは、「子どもの参画」で進めて7年になるが、貝塚市民の理解を得てまちづくりの柱になるよう活動する。

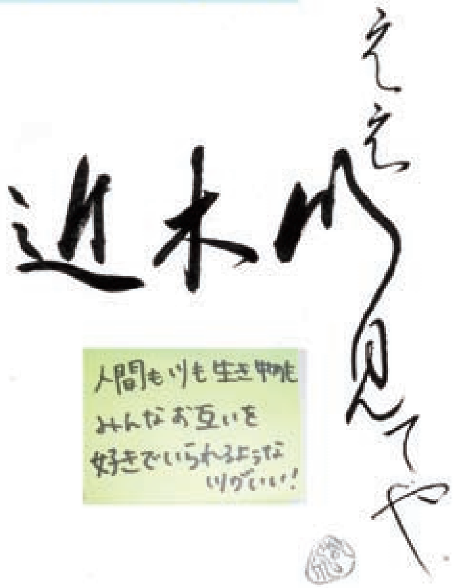
近木(こぎ)川(がわ)再発見からまちづくり

１９６１年から４０年６ヶ月、貝塚市役所でお世話になり、そのうち１６年間は万年課長です。２００２年７月から、貝塚の豊かな自然を次世代へ継承する市民活動を育てるため、市立自然遊学館で、お世話になっています。

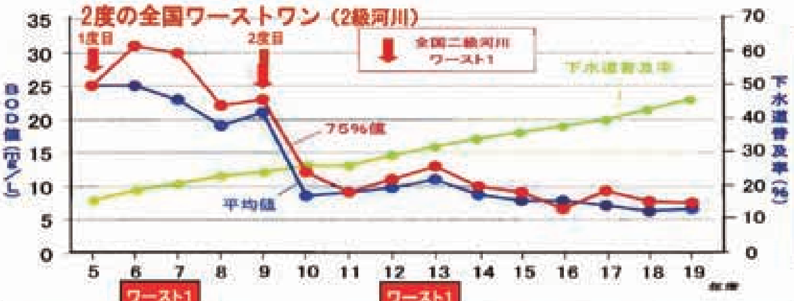
平成元年から6年半、貝塚高校園芸科の生徒が中心の市民活動「花いっぱい運動」を育てました。（サポートしてコントーロールしない）

自ら現場で汗をかき(ボランティア）市民、学校などからの信頼を得た.(公園緑地課長）

活動の原点(信頼)



貝塚市立自然遊学館非常勤嘱託
近木川流域自然大学研究会代表　橋　本　夏　次



近木川下流の（基準点・近木川橋）←水質(BOD)の変化↓

年度（平成）	5 (ワースト1)	6	7	8	9 (ワースト1)	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
平均値	25	25	23	19	21	8.6	9.1	9.8	11	8.8	7.8	7.8	7.2	6.3	6.7
75%値	25	31	30	22	23	12	9.1	11	13	9.9	9.1	6.6	9.2	7.7	7.5

生活排水実践活動 削減効果

近木川への愛着【地域の人は財産】

年度	実施日	町会名	世帯数	削減効果 BOD	COD	SS	油分	MBAS
6	平成6年12月1日～10日	和泉台	603	12.0%	—	—	14.0%	10.0%
7	平成8年 2月1日～10日	古くからの町会 畠中	335	40.0%	25.0%	23.0%	20.0%	—
8	平成8年12月2日～11日	府営貝塚森府住自治	477	18.5%	24.0%	15.0%	39.0%	—
9	平成10年3月1日～10日	三ツ松西ノ町	81	26.3%	28.3%	44.2%	8.4%	—
10	平成12年3月1日～10日	旭ヶ丘	180	18.8%	—	—	—	—
10	平成12年3月6日～15日	古くからの町会 馬場	250	41.9%	—	—	70.0%	—

平成17年度
公共用水域水質測定結果の概況
平成18年12月
環境省水・大気環境局　水環境課

7. 地域における水質向上のための取組

- 過去10年の間に大幅に水質が改善した水域も多数みられる。
- このような水域の多くでは、関係市町村や流域住民等による主体的かつ持続的な取り組みを実施。

水質向上のための取組（事例）

水域名	取組内容
近木川下流(大阪府)	[illegible]
神西湖(島根県)	[illegible]
児島湖(岡山県)	[illegible]

花いっぱい運動から⇒貝塚の豊かな自然を次世代へ継承する市民活動を育てる施設。知識偏重の博物館でなく生活重視の博物館。市民不在でなく。
自然遊学館平成5年10月開館 。
郷土愛を育てる　⇒ 遊び(自然)の中で
博物館でない博物館 (専門家の施設でない。)

平成8年　環境学習の始まりで、小・中・高の先生方を中心に「近木っ子会議」を結成。行政がサポート(事務局担当)

近木川
ゴミを拾う大会

近木川が大ピンチです！
たいへんよごれています。
そこでみなさんの力がひつようです。
みんなで、ゴミをひらいに行きませんか？

日時　11月17日（土）　午後2時～4時
集合場所　和泉平成大橋
（午後1時半に学校へきて先生たちといっしょに行ってもかまいません。）
持ち物　長そで、長ズボン、軍手、
ハサミ、スーパーの袋

近木川を守る隊員より
永見、永橋、古坂、出原、戸田、福井

【サポート】
ゴミは市で処分します。

出前教室は、子どもとのキャッチボールで。
出前教室では、知識(専門家でないから)の押し付けはしないで、子どもの目線で必要とする最小限の情報提供。上流と下流、昔と今など比較できる情報を提供しています。子どもの感性から学ぶことが多いです。

←南小学校　4年生自作の呼びかけ文と清掃↓

中学生の出前講座で必要最小限の情報提供

特にびっくりしたのが、紀貫之が貝塚に来たということでした。今私たちが国語の授業でやっている歴史上の人物が貝塚に来たことは、とても誇りに思いました。
最後に見せていただいた数々の写真は、とても感動しました。その中でも一番感動したのは、近木川の四季でした。貝塚は小さな市かもしれないけれど、他の市や県に負けていないのでないかと思いました。
環境学習(出前教室)で、生徒(中3)の感想。

昭和30年ごろの近木川河口
海に向かって

貝塚高校で出前教室(平成12年9月2日）。
子どもの感想を看板にして河川管理者と一緒に設置する。
管理者と高校生をつなぐ大人との協働

自分たちで川をよごしているのに自分たちで掃除するのはなんかへん。はじめっから汚せへんかったらいいのに。（感想文の一部）

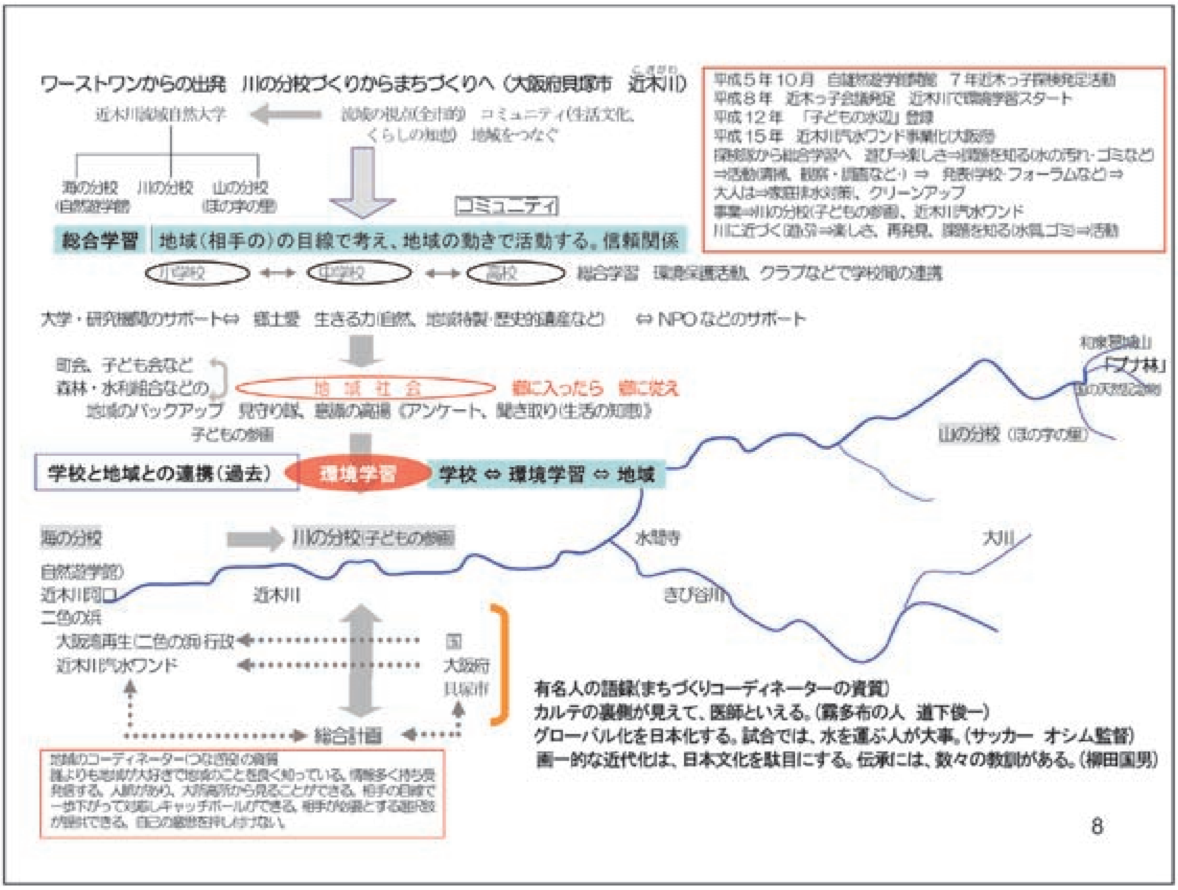
看板たてた後の感想

つなぎ役(出前教室での役割)
① 地域が大好きで、地 域をよく知っている。
② 人脈がある。
③ 情報を持っている
④ 相手の目線で、一歩さがって対応。相手が必要としている選択肢（情報など)を提供することができる。
⑤ 大所高所から見ることができる

子どもの井戸端会議 08-05-17(土) 近木川河口
地引き網 クサフグ、ワカメが沢山
大漁のクサふぐ
ワカメ戦争
まずは 水きり
ワークショップ 小·中·高、大人が参加
高校生がサポート
人間の一方的じゃない川
←子どもの意見↓
人間も川も生き物だ
みんなお互いを
好きでいられるような
川がいい!
海や川を見ても
嫌な気持ちに
ならないよーな川!
(ごみなどがない!)
たくさんの夢と
たくさんの笑顔が
みられるよーな川!!
信用できる
海・川
大人の意見 子どもたちが夢中になって遊んでいる姿を見て
･･･ 特別な準備をしなくても。 いつでも安全に水に親しめる
環境を作っていきたいと思います。
76

子どもの井戸端会議 08-05-17(土) 近木川河口
地引き網 クサフグ、ワカメが沢山
大漁のクサふぐ
ワカメ戦争
まずは 水きり
ワークショップ 小·中·高、大人が参加
高校生がサポート
人間の一方的じゃない川
←子どもの意見↓
人間も川も生き物だ
みんなお互いを
好きでいられるような
川がいい!
海や川を見ても
嫌な気持ちに
ならないよーな川!
(ごみなどがない!)
たくさんの夢と
たくさんの笑顔が
みられるよーな川!!
信用できる
海・川
大人の意見 子どもたちが夢中になって遊んでいる姿を見て
･･･ 特別な準備をしなくても。 いつでも安全に水に親しめる
環境を作っていきたいと思います。
76

土地への愛着保つ利用を
2002年（平成14年）2月3日
環境協働管理への道
土地利用の画一化⇒人と自然とを切り離した。
⇒土地への愛着と知恵を無くした。
東山丘陵開発
←風致地区
公園⇒
近木川 ⇒ 全長 約18km
流域面積約28k㎡ 源流 和泉葛城山（857．3m） 山頂には 国の天然記念物「ブナ原生林」がある。
・金剛生駒紀泉国定公園）。
・河口 大阪府下で唯一残った二色の浜海水浴場がある。
・水の循環 近木川から利水している「ため池」水路網。自然を意識した水利組合の管理
阪和自動車道↓
10年前
この場所
まちづくり ⇒地域特性、自然環境、文化財、歴史的遺産、生活文化など。地域の人は財産土地への愛着と知恵を取り戻す。（伝承）
・地域の人たちが参加できるまちづくり。
・効率、利便、快適？


ワーストワンからの出発 川の分校づくりからまちづくりへ（大阪府貝塚市 近木川）
近木川流域自然大学
海の分校
川の分校
山の分校
コミュニティ
総合学習
地域（相手の）の目線で考え、地域の動きで活動する。信頼関係
小学校
中学校
高校
大学・研究機関のサポート⇔
⇔NPOなどのサポート
地 域 社 会
郷に入ったら 郷に従え
学校と地域との連携（過去）
環境学習
学校 ⇔ 環境学習 ⇔ 地域
海の分校
水間寺
大川
近木川
きび谷川
「ブナ林」
国
大阪府
総合計画
有名人の語録（まちづくりコーディネーターの資質）
カルテの裏側が見えて、医師といえる。（霧多布の人 道下俊一）
グローバル化を日本化する。試合では、水を運ぶ人が大事。（サッカー オシム監督）
画一的な近代化は、日本文化を駄目にする。伝承には、数々の教訓がある。（柳田国男）
8